広報伊方町

発行所
愛媛県西宇和郡
伊方町
編集
町長公室
印刷所
尾上印刷所
八幡浜市天神通
電話(0894)

国道一九七号線バイパス

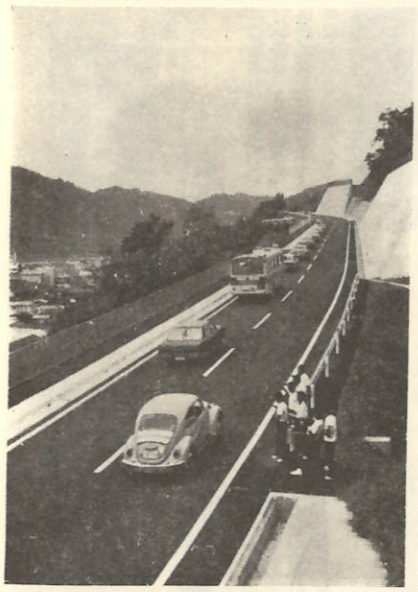
湊浦～川永田間三・六キロ開通

トンネルと橋で結ぶ

国道一九七号線バイパスの湊浦～川永田間三・六キロメートル（連絡道〇・三キロメートルのぞく）が、九月十二日待望の開通になりました。

当日は、町主催の開通式と祝賀会が行われ、建設省四国地方建設局大洲工事事務所長、愛媛大分連絡国道開設促進期成同盟会長（八幡浜市長）、高門県議会議員、八幡浜県事務所長、土木事務所長、その他工事関係者、町側から町長、議長、町議会議員、関係部落区長、国道バイパス道路委員さんなど約七十人が出席しました。

現地でテープカットのあと白バイを先導に通りそめを行い、役場において祝賀会が挙行されました。



待ちに待った新国道のオープン。子どもたちも手を振って歓迎

開通なった湊浦～川永田間の工事は、昭和四十八年に着工してから五年の年月をかけて完成したもので、事業費三十六億二千二百万円を要しております。

この金額を単純に計算してみますと一メートル当り百万円の事業費になります。

湊浦～川永田間が開通したことにより、伊方地区の供用延長が四・二キロメートルから三・九キロメートル（連絡道路含む）になり、距離にして〇・三キロメートル、所要時間で五分から十分間短縮されます。

また、バイパスを通って伊方町への車の流入、流出が容易になったほか、さらに伊方地区に用事のない車は、町の中心部を通らなくなり、町内では安心して通学や買物ができるようになりました。

しかし、一方新国道開通と同時に交通事故の多発が予想されます。無謀運転、暴走運転などしないよう安全運転につとめてください。

八幡浜＝三崎間 五十三年度末で 約半分が完成予定

湊浦～川永田間が開通したとの機会に国道バイパス建設の今までの経過をふりかえるとともに、現在の工事状況を紹介します。

三崎半島の海岸線を走る現国道は、延長五十三・三キロメートル（八幡浜市矢野町～三崎町三崎）あり、リヤス式海岸に沿って幅員が狭いうえに、カーブが連続してあるほか、急勾配も多く、特に豪雨や長雨によって地すべり等を起し、交通しゃ断を余儀無くされ、幹線道路としての機能マヒする悪路で、"二度といくな線（一九七線）"とも呼ばれています。

このため地元住民や、交通輸送機関から、唯一の幹線路として早急な改修が熱望されておりました。

そこで建設省大洲工事事務所では、一九七号線のバイパス工事の計画を立て、昭和四十一年から調査を開始。

工事は、昭和四十七年に大峠地区（保内町宮内～河内間、延長四・六キロメートル、昭和五十年十月供用済）着工。

昭和四十八年に八幡浜バイパス（八幡浜市矢野町～同市大平間、延長一・一キロメートル、昭和五十一年八月供用済）及び伊方地区（湊浦～川永田間、延長三・六キロメートル、本年九月十二日供用開始）着工。

一方、三崎町側からも工事が進められており、昭和四十九年に三崎地区（三崎町名取～三崎間、延長五キロメートル＝うち三・五キロメートルは供用済）も着工し、それぞれ工事が進められ、五十三年度末までに未供用地区が完成し供用開始される予定です。

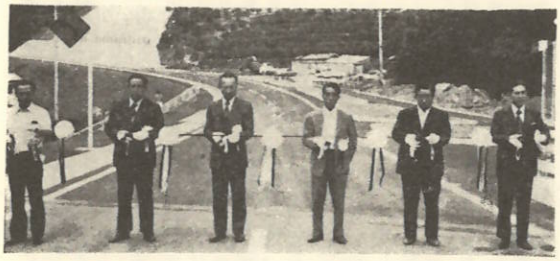
また、五十三年度には本町の九町、瀬戸町大久、川之浜、塩成の各地区の工事が着手されています。

これによって五十三年度末においては、三崎半島の大動脈であるバイパスは計画延長三十九・四キロメートルのうち約半分の十八・五キロメートルが完成される予定です。

なお、全線オープンは、昭和六十年頃であり、これに要する事業費は、三百四十三億二千八百万円を見込んでいます。

全線開通すればカーブの多い現国道（五十三・三キロメートル）より距離にして十三・九キロメートル、所要時間も約二時間かかっていたものが、五十分（八幡浜から）に短縮され、快適な走行や荷痛みの解消、ならびに地域産業及び日常生活の基盤道路、レクリエーション道路としての役割がおおいに期待されます。

関係者多数が列席して、開通をよろこびあいました



平田期成会会長（八幡浜市長）　辻町議会議長　山本町長　平田大洲工事事務所長　高門県議会議員　藤岡八幡浜県事務所長

おわび

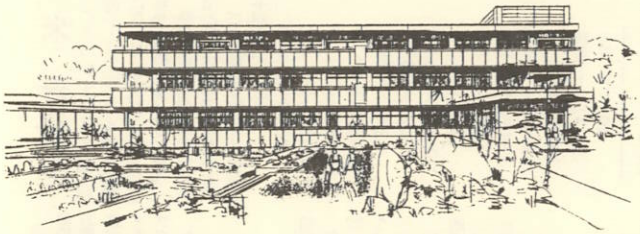
先月号広報で国道バイパス開通記事のなかで、河内～川永田間と紹介していましたが、湊浦～川永田間の誤りにつき、訂正しおわび致します。

伊方中特別校舎 改築工事はじまる

完成は一月末

伊方中学校特別校舎の改築工事がはじまりました。

鉄筋コンクリート三階建、延一千二百五十三平方メートル、工事費は一億三千八百万円です。



伊方中校舎完成予想図

完成は、明年一月末の予定です。建物は、一階が調理室、染色室、被服室、被服準備室、教材室、二階は理科室二室（第一理科室、第二理科室）、理科準備室、薬品室、三階はクラスルーム三室、相談室、女子更衣室からなっています。

改築する校舎は、昭和二十八年三月に建築（木造平屋建）したものですが、二十五年の風雨に老朽化し、危険校舎の指定となり改築することになったものです。

建設場所は、旧校舎跡地ですが地質調査の結果、基礎工事として直径三十五センチメートルのコンクリートパイル八十六本を地下七メートルから十三メートル打込み強固な地盤に仕上げます。

ジーゼルハンマ音も高らかに基礎工事開始

夏休みも終り、九月から授業が開始されましたが、一月末の完成までの五カ月間工事が進められます。その間生徒のみなさん、工事現場附近は危険ですから近寄らないでください。

◇　◇

工事の無事祈る起工式

この工事着工にあたり、工事の無事を祈る起工式が八月八日行われました。当日は町長、助役、町議会議員、教育委員、PTA代表、学校長、生徒代表、工事関係者が列席し、くわ入れの後、玉串奉典などの儀式がおごそかにとり行われました。

八教管内民俗芸能大会

九町"きそん節"が出演

第三十回記念えひめ芸術祭、八幡浜教育事務所管内民俗芸能大会（会員十五人）の手によって、立鹿、相撲甚句など）が、八月三日大洲市民会館で開催されました。

その席上、町の無形文化財に指定されている九町の「きそん節」も出演（写真）し、多数の観客の拍手を浴びました。

この「きそん節」は、毎年お盆の八月十四日に歌い踊られているもので、踊りは日丸扇子を両手にして踊り、歌はご詠歌調の独特の盆踊りです。

今からおおよそ五百五十年前から踊り伝えられてきているもので、現在でも九町きそん節保存会派に継承されています。

昭和四十一年三月二十六日付で町の無形文化財にも指定されています。

こうした郷土の芸能、文化は大切に守り育てて行きたいものです。

きそん節の由来

毎年八月十三日から十六日がお盆で、十三日には先祖の墓に参り家々では精霊棚（オタナ）を立て笹を左右につけ、素麺やご飯を供え、お菓子や季節のくだもの、香花も供え、燈籠に火をともし、お寺のお坊さんをよんで祖先の霊をお祭りします。

いつの頃からか十四日には昔から広場に老若男女が集まり念仏を唱えながら踊ったのが盆踊りとなり、踊り念仏の流れを汲むものがその後しだいに盛んとなりました。

九町地区では、一名「きそん節」として伝えられ、天明以後（今から約五百五十年前）から、ご詠歌調として独特の盆踊りが生まれ、祖先の霊を供養することになり、戦後きそん節保存会によって、現在に継承されています。

みんなで築こう豊かな老後

おとしよりに しあわせを

九月十五日は「敬老の日」この日は、これまで社会づくりに貢献してこられたおとしよりを敬い、その健康を祝うものです。

また、十五日から一週間は〝老人福祉週間〟で、町内ではこの週間中に各地区の老人クラブが盛大な敬老会を催し、歌や踊りで楽しい憩いの一日をすごしました。

町内のおとしよりと呼ばれる六十五歳以上の人口は、さっと千三百人、町の人口の十四・六％にあたります。

食生活の改善、医学の進歩等によって、日本人の平均寿命は世界のトップクラスに達しており、こんごもお年寄り層は増加の一途をたどることでしょう。

こうしたなかで、お年寄りに対して、行政面ではどのような施策が講じられているのか、簡単に紹介して見ましょう。

◎老人クラブ

本町の老人クラブの結成が進められたのが、今から十五年前の昭和三十八年。現在では二十四の老人クラブが結成され、それぞれ活動を行っています。町としては、この老人クラブの活動育成費に百五十四万円予算を組んでいます。

◎敬老会

お年寄りのみなさんが年間行事の楽しみの一つにしておられる敬老会の経費に一人当り千円が助成されています。（予算額百二十七万円）

◎長寿祝金

八十歳以上のお年寄りのみなさんに長寿祝金として五千円支給しよろこばれています。ことしは二百八人あります。（予算額百四万円）

◎金婚式

結婚後、仲むつまじく五十年間、お互に手をとりあってこられた夫婦十六組に金婚式を記念して金盃を贈りました。これからダイヤモンド婚式（六十年）めざしてがんばってください。

◎医療費の無料化

七十歳以上のみなさんが病院にかかる場合は、その医療費は無料です。この制度は昭和四十八年一月から実施されていますが、町の負担額は年間四千百七十八万円を見込んでおり、前年にくらべ八百三十八万円も増額となっています。

また、寝たきり老人については六十五歳から六十九歳まで無料化されています。

◎ホームヘルパー

独居老人や寝たきり老人のお世話いただくホームヘルパー（老人家庭奉仕員）として門田キミカさん（川永田）、井上光子さん（豊之浦）、菊池加代美さん（久保）の三人が、この仕事にたずさわっています。

◎特殊ベット

特殊ベットもそれぞれお年寄りのみなさんに無料でお借ししています。希望者は福祉課または民生委員さんまで申し出てください。

◎愛のテレフォン

一人ぐらしのお年寄りの庭家に愛のテレフォンを設置しています。設置を希望する家庭があれば民生委員さんまで申込んでください。

◎老齢年金

国民年金を納めた人で六十五歳になれば支給される年金です。（六十歳からでも本人の希望で支給されますが、支給額が低くなります）。掛金を掛けた年数によって金額が違います。

◎老齢福祉年金

七十歳以上に支給される年金で一カ年十九万八千円（一カ月一万六千五百円）を年三回にわけて支給されています。

◎老人こいの家建設

お年寄りのみなさんが、朝晩気軽に利用できる施設として、老人こいの家の建設を進めています。お年寄り同士、お互いが楽しい語らいの場として活用されています。

◎陽だまりの部屋

各部落の集会所、公民館に〝陽だまりの部屋〟を設け、ホームコタツ、カラーテレビ、アンマ機、座布団などを購入し、それぞれ配備しています。

お達者で！

ことしも例年のようにお年寄り番付をつくってみました。これをみますと、おじいちゃんの横綱は二見の川口寅吉さん（91歳）。おばあちゃんの横綱は川永田の岡田ヤツさん（96歳）。岡田さんは2年連続町内長寿のチャンピオンです。これからもお元気で長生きされますようお祈りします。

川口寅吉さん（91歳）

岡田ヤツさん（96歳）

勧進元　伊方町　**お年寄り番付**　昭和53年9月10日現在調

東方（男） 位置	氏名	年齢	住所	西方（女） 位置	氏名	年齢	住所
横綱	川口　寅吉	91	二　見	横綱	岡田　ヤツ	96	川永田
大関	田中　大吉	91	湊　浦	大関	高石ハマヨ	95	豊之浦
関脇	佐々木道太郎	89	湊　浦	関脇	渡辺　コト	93	河　内
小結	中元　若松	89	仁田之浜	小結	樫尾　シン	92	加　周
前頭	木戸源太郎	88	河　内	前頭	高橋　セイ	92	古屋敷
〃2	井田与之平	88	須　賀	〃2	井上　トミ	92	豊之浦
〃3	阿部　甚助	87	川永田	〃3	川内ハツノ	91	向
〃4	松岡惣之丈	87	湊　浦	〃4	佐々木サノ	91	湊　浦
〃5	大沢　萬吉	87	奥	〃5	高橋フジエ	91	田之浦
〃6	由井太郎吉	86	仁田之浜	〃6	古田　タ子	91	田之浦
〃7	水上喜代作	86	奥	〃7	矢津コレン	90	大　成
〃8	菊池　源治	86	豊之浦	〃8	浅田ハルエ	90	川永田
〃9	桝田伊勢一	86	豊之浦	〃9	久保　タヨ	90	大　成
〃10	井田　与市	85	畑	〃10	脇田マスヨ	89	須　賀
〃11	兵頭秋三郎	85	伊方越	〃11	阿部　フジ	89	西
〃12	二宮元五郎	85	畑	〃12	古田ミドリ	89	大　成
〃13	兵頭幸三郎	85	中之浜	〃13	酒井　マキ	89	伊方越
〃14	政木　喜八	85	湊　浦	〃14	市末　ミワ	88	小中浦
〃15	高内　鶴市	85	久　保	〃15	中村　ダイ	88	二　見
〃16	佐々木助松	85	湊　浦	〃16	上田　シナ	88	鳥　津

☆紙面の都合で男女ともにベスト20位までの人を紹介しました。

（満年齢）

米寿（かずえ年）

ことし、かずえて八十八歳になられたおじいちゃん、おばあちゃんおめでとうございます。

県知事より木盃、町から赤座布団とお祝状を記念に贈りました。

ことしはつぎの十四人（昨年も十四人）の方々です。

兵頭キヨノ（中之浜）
宮本　ヤエ（仁田之浜）
山口イノヨ（仁田之浜）
由井太郎吉（仁田之浜）
藤堂ヨシノ（河内）
松岡惣之丈（湊浦）
坂本マツヨ（小中浦）
佐竹　ソノ（中浦）
前田　サオ（亀浦）
阿部　甚助（川永田）
渡辺チドリ（豊之浦）
辻　ナカヨ（豊之浦）
渡辺キトノ（豊之浦）
大沢　萬吉（奥）

晴れの金婚式

おめでとうございます

結婚してから五十年――ことし金婚式を迎えられたおしどり夫婦が十六組（昨年は二十組）あります。

五十年間仲むつまじく、お互に手をとりあってこられた十六組のみなさん、おめでとうございます

町から記念品として金盃とお祝状を贈りました。

矢野朝倉・ヨシ子（大浜）
松下寅吉・脇子（仁田之浜）
大森春茂・八千代（河内）
土井政治・寿（河内）
井上鹿之助・ソネヲ（川永田）
下向勇治・イチエ（向）
井田孝雄・ツル子（畑）
桝田萬蔵・フジエ（須賀）
桝田文七・ユキオ（久保）
根来与市・トシ子（西）
徳田友綱・朝子（加周）
古田利三市・タケ子（加周）
笹田与之吉・ヤス子（加周）
木村忠治郎・カン（大成）
西村国蔵・テル（鳥津）
鳥津高吉・シカノ（鳥津）

ふえ続ける老人世帯

ひとり暮らしは六十六万人

明治時代の日本人の平均寿命は男性四十二・八歳、女性四十四・三歳でした。それから約百年、男性七十二・六九歳、女性は七十九・九五歳と、世界の長寿国のトップクラスへ躍り出ました。

もはや「人生七十年」はあたり前のことなのです。

つまり、日本は高齢化社会への第一歩を踏み出したといえましょう。しかも、そのスピードはたいへん速いのです。

昭和五十年は、十五歳から六十四歳までの働き手八・五人に対し、老人（六十五歳以上）一人の比率でしたが、三十年後の昭和八十年には、一人に対し老人一人となります。

問題は、人口の増加だけではありません。核家族の増加、扶養意識の変化などから、高齢者世帯の増加も目立っています。現在、ひとり暮らしのお年寄りは、全国で約六十六万人にのぼると推定されています。

年金制度、老人医療の無料化、住宅問題、福祉サービスなど、社会保障の充実を図るとともに、老後をいかに生きるか、という面にも目をむける時を迎えているといえましょう。〝長い持ち時間〟を豊かに過ごすための「生きがい対策」がより重要な意味をもってくるのです。

この問題はお年寄り本人の課題であることはもちろんですが、周囲の人たちも、お年寄りの生きがいについて、アドバイスをしたり、相談にのってあげてください。

愛されるおとしよりになるために

その一　わがままにならないこと。

その二　年はとっても適当に、おしゃれをしてきれいにすること。

その三　自分にできる範囲の仕事をするよう心がける。

その四　なんでも話しあえる友だちを持つ。

その五　子どもが成人したら早く一人立ちさせ、あまり口だししないようにする。

としよりだからと変に老いこんでしまわずに、としよりだからこそ、若い人の役立つことも多いのです。

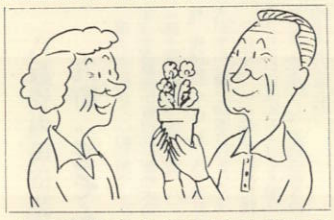
また家族の人もおじいちゃん、おばあちゃんに何か一つ責任のある役割を持ってもらい、楽しい余生を送れるようお互いに協力しましょう。

心のプレゼント

おじいちゃん　おばあちゃん　に便りを

年老いた両親へ、あるいはお孫さんからおじいちゃん、おばあちゃんへ、お知り合いのひとり暮らしのお年寄りなどにも、心のこもった敬老の便りを出しましょう。

一通の便りにこめられたやさしい心は、お年寄りへのすばらしいプレゼントとなるでしょう。



お世話いただく役員さん

◎町老人クラブ連合会

会　長渡辺高十郎（小中浦）
副会長　渡辺　保則（仁田之浜）
〃　広野　鉄蔵（久保）
〃　理　事　山下　日吉（湊浦）
〃　〃　山口　梅男（川永田）
〃　〃　亀田与平治（須賀）
〃　〃　樫尾　寛（田之浦）
〃　監　事　山下　庄松（大浜）
〃　〃　鳥津　清士（鳥津）

◎各老人クラブ会長

大浜＝山下庄松　中之浜＝二宮行雄　仁田之浜＝渡辺保則　河内＝渡辺菊義　湊浦＝山下日吉　伊方越＝兵頭宇三郎　亀浦＝安部定員　小中浦＝渡辺定幸　中浦＝矢野光広　川永田一＝山口梅男　川永田二＝西条クニ子　豊之浦＝渡辺勘太郎　奥＝大沢喜久一郎　向＝藤井八太郎　畑＝田淵清喜　須賀＝亀田与平治　久保＝広野鉄蔵　西＝浜岡己之作　二見＝山口雅雄　加周＝上島竹松　田之浦＝樫尾寛　古屋敷＝松本荘市　大成＝大成金右エ門　鳥津＝鳥津清士

（敬称略）

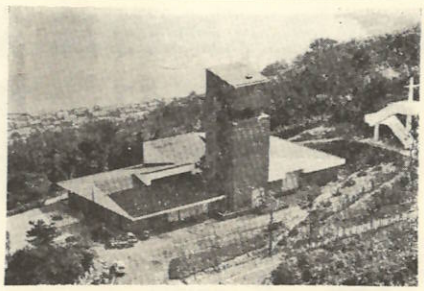
伊方ビジターズハウスの愛称「いこいの家」にきまる

佳作に市尾さん（河内）

四国電力株式会社では、九町越にオープンしている伊方ビジターズハウスの愛称募集を行いましたが、全国各地から九百九十点の応募があり、選考の結果、「いこいの家」にきまりました。

〝みんなが自由にくつろげる家〟のイメージがあらわれている点で決ったものです。

佳作には、「太陽の家」「ひまわり」「みんなの家」「ツワブキ」の五点が選ばれました。



みんなが自由にくつろげる家です。お気軽にご利用ください。

入選者及び佳作者はつぎのとおりです（同一作品の場合は抽選）

入選「いこいの家」
柳瀬　淳さん（松山市）

佳作「太陽の家」
久積美香さん（徳島県阿南市）

佳作「太　陽」
浜本恵子さん（瀬戸町）

佳作「ひまわり」
安藤節子さん（岡山市）

佳作「みんなの家」
堂崎栄治さん（丸亀市）

佳作「ツワブキ」
市尾和美さん（河内）

九百九十点の応募の内訳をみてみますと、四国四県、六百三十六点、四国外三百五十四点で、そのうち伊方町内が八十四点、八幡浜市内から四十点の応募がありました。

四国外で応募の多かった都道府県は、東京三十六点、大阪三十三点、岡山二十七点、北海道二十五点、新潟二十点の順でした。

年令層では、十一歳から二十歳が百四十八点、二十一歳から三十歳まで百四十八点が最高の同数でした。

この「いこいの家」が、いつまでもみんなに親しまれ、愛される施設でありますよう願うものです。

大雨乞祈願

「雨がほしい」と神だのみ

雨よ降れ！必死で太鼓を打ち鳴らした

ミカン園は枯死寸前、飲料水もピンチを迎えていたことしの干ばつ。町でもいち早く干ばつ対策本部を設置。

何としても雨がほしい！そこで〝困った時の神だのみ〟と区長さんを中心に九月三日午前六時から伊方八幡神社、九町八幡神社、加周の一宮神社で町民総出の大雨乞祈願を実施。

〝雨たまわれ龍王様、龍王様が焼けるぞ〟の声と太鼓、カネの音が境内にひびきわたりました。

願いがかなってか、翌日四日から五日にかけて四十三ミリの恵みの雨が降り、ミカン園に水運搬して潮水作業に汗だくの農家のみなさんは、ひと生きつきました。

そこで昭和四十二年以来、十一年ぶりの大雨乞の状況を写真で紹介することにしました。

町長も天に祈って太鼓を打つ

勇ましい姿の〝伊方女性〟登場

まず古老が先頭に立って手ほどきを披ろう

干ばつは自然のなす技（わざ）。しかし、私たちは昔からの伝えを生かし、現代を生きている。〝困った時の神だのみ〟こうした祈願は、人と人との和をつくります

随想

安全と調和

伊木　貞雄（元九州工業大学教授）

公害問題には、いずれもの場合にも常に「安全と調和」が問題の中心となる、すなわちその公害が人の健康や生活環境に忍受し得る程度に安全であるか否か、その対策が産業の健全なる発展や人間生活上の要求と調和するか否かの問題である。

特に原子力発電の場合、放射線が人体に対して安全か否かの問題は原発の第一義的な問題として論議されぜ、電力の人間の文明生活に必須であることとの調和の問題が深刻である。

原子力発電所の建設には、ほとんど例外なくその安全性の問題で反対運動がおこり、しばしば訴訟問題になっている。

四国の伊方発電所の訴訟問題はその最初の判決として一般の注目を浴びたが、結局原告の発電所の許可取消の訴訟は棄却となった。裁判所の判決は、主に法的に許可の当否が判断されているようであるが、もっと学問的に常識的に考える必要があるように思う。

しかし、結論的には原子炉の安全性と電力需要との調和の問題に対する判決は、学問的にも常識的にも大体妥当なものであると思われる。

問題の核心をなす安全性については原子力発電所の場合、放射線被害の特殊性にかんがみ、その規制の厳格でなければならぬこと勿論であるが、日本人の原ばくに対する特殊な立場から原子力といえば直ちに原ばくを想起して原子力アレルギーにおちいっている嫌いなきにしもあらず。

例えば伊方訴訟の原告や一部の人々は、放射線の許容濃度はゼロであるべきだと主張しているが、現実の人間の世界には絶対安全とか絶対純粋とかはあり得ない。

原子力委員会の定めている許容量は年間五百ミリレムという被ばく線量は人類には障害を与えることとされ、この値は人体に何等かの影ぎょうを及ぼす線量の十万分の一程度に相当するという。

一方地球の自然放射能は年間百ミリレム程度であり、地球の場所により数十ミリレムの地域差があるので、伊方発電所の放射線量は地球の自然放射量の地域差の範囲内にある。これでも絶対安全ということが判明している線量の数十分の一であり、実際発電所周辺については目標値として五ミリレム以下と定められている。

伊方発電所の場合は更に低く原子炉の正常運転時の気体廃棄物による被ばく線量は敷地周辺で年間〇・六ミリレム、液体廃棄物によるもの年間〇・〇一ミリレム以下であり不安であるというなら地球上には住めなくなり地球を逃げ出す外ない。地球は本来不純なのであり、我々はこの不純に適応して今日生きているのである。

原子炉の事故の場合の対策も厳格を極め、起こり得ないと思われる事故まで想定して二重三重の安全対策が施されており、外のいずれの交通機関や輸送機関等よりも、はるかに安全であることが従来の実績により示されている。将来更に実績を重ねるに従ってその安全性は一層向上するものと考えられる。

もう一つの重要な問題は安全性と電力需要等の現実の要求との調和の問題である。

伊方判決では電力の供給など公共の必要ある場合において人類に影きょうがあるとの判明している最低の放射線量の数十分の一の量を許容被ばく線量（年間五百ミリレム）と定めることは違法でないとして両者の調和を計っている。

原子力の事故の場合の対策も厳格を極め、起こり得ないと思われる事故まで想定して二重三重の安全対策が施されており、外のいずれの交通機関や輸送機関等より反対している。

一般公害でも、公害基本法に最初は「産業の健全なる発展との調和を計るものとする」とあったがその後の改正でこの調和条項を削除している。

これは公害対策に健康優先の姿勢を示すゼスチャーとしては有効であるかもしれぬが、少なからぬ誤解を招くものであり、大所高所より公害問題を公平に見れば、誤りであるといわざるを得ない。

公害対策は決して二者択一ではなく両者の調和が必要である。二者択一なら問題は極めて簡単であるが、これでは現実が許さない。

ただその調和の限界が問題で、例えば一般公害のSOX（イオウ酸化物）やNOX（窒素酸化物）についての許容濃度は、人体に影きょうを及ぼすぎりぎりの値（SOX〇、〇四PPM、NOX〇、〇二PPM）であるに反し、原子放射線の場合の許容線量を五百ミリレムでも人体に影きょうある濃度の数十分の一、現在実績の目標値五ミリレム以下、更に伊方発電所の場合〇・〇六ミリレムで人体に影きょうを及ぼすと考えられる値の数十万から数百万分の一に当たり、極めて安全率の高い値となっている。

もしこれでも不十分というならすべての原発を否定するに等しく、伊方訴訟の原告の要求は放射線量ゼロというのは、正にすべての原発の否定であり、これは人類のエネルギーの問題、ひいては今日の文明の進路に対する世界情勢判断の問題で、一発電所の許否とは次元を異にする問題であると思う。

原子力の平和利用に関しては、日本人の原ばくに対する恐怖感より来る原子力アレルギーを脱脚し、冷静な判断が必要であるが、これには、一方では安全性に対する技術の向上を更に一層推進するとともに原子力に対する民衆の啓もうが極めて重要であると思う。

たばこ小売組合

安全運転願い　交通茶屋開く

たばこ小売組合では、八月二十一日伊方町農協撰果場前において交通茶屋を開設しました（写真）

暑い日の車の運転は、とかく疲れやすく、そのためイライラ運転やいねむり運転、過労運転が原因で重大事故が多く発生しています。

そこで、たばこ小売組合では、こうした事故を防ぐため、通行くドライバーに冷たいお茶をサービスし安全運転を呼びかけました。

交通事故の恐ろしさは、誰もが知っていることです。ワキ見運転、無理な追越し、徐行違反などちょっとした油断の誤りから事故が起きています。

事故を起してからでは遅すぎます。みんなで交通ルールを守り安全運転に心がけ、交通事故のないよう気をつけあいましょう。

ながら俳句会

避船を追ひ来る岸の虫の声　西内ふじよ（松山市）
施餓鬼寺義男善女に通り雨　城間さかえ（奥）
村あげて雨乞い祈願す慈雨賜ふ　菊池あつ子（奥）
雨を乞ふ踊りのなかの龍王堂　松田　長陸（久保）
雨乞いを終り一夜の雨の音　渡辺なみえ（奥）
雨乞いや神に通じし恵み雨　城間ちづる（奥）
雨乞いの祈願さなかの天曇り　山口あさ子（畑）
雨乞いの悲願の太鼓ひたに打つ　岩見あい子（奥）

(ポンプ操法競技大会)
第十三分団(向)が三年連続優勝

町消防団、夏の恒例行事であるポンプ操法競技大会（写真）が、八月十二日伊方中学校庭で開催されました。

当日は、可搬動力ポンプの部と自動車ポンプの部にわかれて行われ、可搬動力ポンプの部で第十三分団（向）が三年連続四度目の優勝に輝きました。

また、二位は第十四分団（九町東）、第三位には第二分団（中之浜）が、それぞれ入賞しました。

自動車ポンプ操法では、町見目動班（九町）が四年連続の優勝です。

このポンプ操法競技大会は、消防団員の消防技術の向上と士気の高揚をはかる一方、迅速適正な行動を実践することによって火災防ぎょの万全を期するため、毎年開催されているものです。

大会の成績は、つぎのとおりです。

◎可搬動力ポンプの部
優勝　第十三分団（向）
二位　第十四分団（九町東）
三位　第二分団（中之浜）
四位　第八分団（川永田）
五位　第七分団（小浦）
六位　第五分団（九町西）

◎自動車ポンプの部
優勝　町見目動車班（九町）
二位　第五分団（湊浦）
三位　第十七分団（加周、古屋敷、田之浦）

第3回 素人のど自慢大会
チャンピオン賞に島本さん

町商工会青年部（非上吉雄部長）主催の第三回素人のど自慢大会が七月二十九日伊方小学校庭で開催されました。

この日は、湊浦の八幡神社の夏越祭（ワヌケ）にもあたり、会場の伊方小学校庭には、ウチワ片手にユカタがけの多くの観客がつめかけ、それぞれ声援と拍手がうず巻きました。

ことしも三十人が出場し、昔懐しい歌、最近の流行歌など美声を披ろう。審査の結果、島本睦子さん（仁田之浜）が晴れのチャンピオン賞に輝きました。

以下、各賞につぎの方々が選ばれました。

おめでとうございます。

○チャンピオン賞　島本睦子（仁田之浜）＝津軽海峡冬景色
○準チャンピオン賞　大沼正一（中之浜）＝そんな女の一人ごと
○敢闘賞　福島敬美（豊之浦）＝岸壁の母
○熱演賞　泉賢一（大浜）＝無法松の一生
○特別賞　岡山雪太郎（仁田之浜）＝建設太鼓
○カッコイイデ賞　後藤松夫（湊浦）＝抱擁ってます
○アイディア賞　佐藤（九町越）＝酒と涙
○ガンバッタデ賞　沼英一（町外高知県）＝昔の名前で出ています
○チビッコ賞　足利美穂　井上寿美江（中浦）＝サウスポー
○美声賞　岡崎礼（豊之浦）＝暖流

(第27回全国青年大会県予選会)
松田(意見発表)細川(走高)君全国大会へ

愛媛県青年団連合会主催の第二二回青年団全国大会愛媛県予選会が八月二十六日、二十七日の二日間、愛媛大学陸上競技場を中心に陸上競技など十二種目が行われました。

郡予選を勝ち抜いた精鋭が県下から集まり、全国大会出場めざし各競技が実施されました。

本町からも多くの選手が出場しましたが、その中で意見発表部門で松田光一君（久保）が最優秀賞の金的を射めました。

この意見発表部門は、昨年の小泡花子さん（川永田）が出場しており、本町から二年連続全国大会出場に輝いたものです。

また、陸上競技では、男子走高とびで細川彰一君（中之浜）が優勝しました。細川君は、昨年は第七位で惜しくも全国大会出場はできませんでしたが、晴れの栄冠を獲得。両君は十一月九日から十二日までの四日間、東京の国立競技場を中心に行われる全国大会に出場します。ご健闘を祈ります。

このほか、女子走高とびで成田芳美さん（中浦）が第二位に、男子走幅とびで新田正信君（西）が第三位でした。

ソフトボールでは、決勝戦で宇和島市青年団に一対〇で惜敗し、優勝にあと一歩およびませんでした。各種目とも来年度の活躍を期待致します。

＝お礼＝

神奈川県鎌倉市大船一八二〇の八にお住いの篠塚春夫氏（川永田出身）より一万円。

別府市千代町九一三三にお住いの渡辺昭二氏（小中浦出身）より一万円。

別府市亀川四の湯八一三八にお住いの上田正徳氏（仁田之浜出身）より一万円。

北九州市八幡西区上ノ原にお住いで山口建設を経営されている山口繁明氏（二見出身）より一万円

神奈川県川崎市高津区菅生一三五七にお住いの杉田操さん（小中浦出身）より五千円。

なお、この杉田操さん（旧姓山本）は、伊方中学校時代の同級生（昭和三十四年三月卒業生）の所所を知りたいとの申し出がありました。同級生の方で差しつかえなければ現住所を知らせてあげてください。ふるさとを離れていて同級生がなつかしく、その消息を知りたいとのことです。

大阪府堺市北条町一丁二七九番の一二にお住いの森沢貴氏（川永田出身）より三千円。

それぞれ広報編集費用にとご寄付いただきました。紙上より厚くお礼申し上げますとともに、こんごますますのご健康と活躍をお祈り申し上げます。

主婦の貧血
深く静かに潜行する
自覚症状が少なく発見しにくい

美人薄命より、丈夫で長生きの方が、何よりも健康が第一です。

ところが、最近、お母さん方の間で、高血圧や心臓病、糖尿病などが増える傾向にあります。

これは、偏食、欠食、過食などの間違った食生活や運動不足が主な原因で、肥満や貧血などの不健康要素も目立つて多くなっています。

なかでも貧血は、肥満や他の病気と違って、比較的自覚症状が少なく、発見しにくいのが特徴です。

十月一日から一カ月間「食生活改善普及運動」が実施されます。

この機会に健康診断を積極的に受けるほか、正しい食生活とは何か、一から洗い直しましょう。

3人に1人は献血不適者

まさか！わたしが貧血？
女性は三人に一人の高率

〝人命救助にわたしもひと役〟とはかり、進んで献血車に飛び込んだものの、意外にも「採血不適」といわれ、献血を断られた――こういう経験をされた方はおられませんか。

自分では健康体とばかり思っていたが、いつの間にか貧血状態になっていたという例は、最近かなり多いのです。

厚生省の国民栄養調査によると、貧血のために献血で合格しない人は、成人男子の二～三％に比べ、成人女子はなんと平均三十％にもおよんでいます。つまり、三人に一人が献血もできない貧血者なのであります。

女子の貧血者（全血比重一・〇五一以下）を年代別に見ると、

四十歳代	三二・九％
三十歳代	三二・四％
二十五歳～二十九歳	二二・二％
五十歳代	二五・九％
十八歳～二十四歳	二三・六％

となっています。

貧血が徐々に起きている場合、つまり初期の段階では、食欲不振、めまい、動悸（どうき）、手足の冷え、神経過敏などとなって現われますが、ほとんどの人は自覚症状を感じません。

これがさらに進行しますと、まぶたの内側の結膜や爪の色が白っぽく血の気を失い、顔色もわるくなり、体は疲れやすくなります。

このころになると、大半の人が体の変調を訴えるなど、はっきり自覚症状を持つようになります。

横着こそ
貧血予防の敵
手まめな食事づくりを

偏食や欠食は、貧血予防の大敵です。

もしあなたは、ほっそり美人にあこがれて、毎日の食事がサラダだけになってはいませんか。

女性の貧血の大半は、体に特別の病的出血がみられない限り、鉄欠乏性貧血です。これは栄養性貧血の一つで、偏食や欠食など間違った食生活や栄養のアンバランスによる鉄分の摂取不足が原因です。

鉄分を多く含んでいる食品といえば、なんといってもレバーが最高。そのほか、卵、肉、魚などの動植物食品をはじめ、植物性食品では、ほうれん草、こまつ菜などの緑黄色野菜や干しブドウ、ごま、海草類に豊富です。

また、ビタミンCは鉄の体内吸収を促進しますので、新鮮な野菜や果物を多く取るようにしましょう。

鉄分の一日所要量は、男性よりも女性、なかでも妊婦や授乳中の女性は、男性の二倍必要です。

といっても、正しい栄養知識で三度の食事をきちんと取れば、必要量は自然に摂取できるのが普通です。

貧血予防の心がけとしては、鉄分だけでなく、たん白質やビタミンCなどバランスのとれた食事を心がけることが第一です。

もっとも、この〝自覚〟は、健康への関心の持ち方次第で個人差があり、かなり〝重症〟の場合でも自覚症状を感じない人もあります。

定期的に健康診断を必ず受けるようにしましょう。

人

昭和53年7月末現在
世帯数2,548戸（＋1戸）

人口 8,988人（＋14人）｛男4,287人（＋1人）｜女4,701人（＋13人）｝

えんむすび
昭和53年7月1日～7月31日

お誕生 おめでとう
昭和53年7月1日～7月31日

おくやみ
昭和53年7月1日～7月31日

広報「伊方町」に みんなの声を

広報「伊方町」の創刊号が発行されたのが昭和三十年七月。

それから歳月は流れ、次号で二百号を迎えるにいたりました。

そこでこの機会に、広報「伊方町」を編集している町長公室では、紙面により多くの町民のみなさんに登壇いただくため、町づくりに対する意見、あなたの地区の明るい話題、町民のみなさんに知らせてほしいことなどの投稿欄を設けます。

投稿の場合は、六百字までです。

原稿は、採用して掲載する場合がありますので、ご了承願います。

住所、氏名、年齢を記入して町長公室広報編集係までお送りください。

みなさんに親しみのもてる広報紙に致したいと思います。